

令和5年度 赤穂市立塩屋小学校 学校関係者評価

学校名 赤穂市立塩屋小学校

1 本年度の学校経営方針

(1) 教育目標

ともに学び、仲よく遊ぶ児童を育てる ～自ら考え、学び合い、志を高く～

(2) 校訓

【明く】

【清く】

【強く】

めざす学校像

- 1 保護者、地域とともに歩む学校
- 2 安全・安心の保障された学校
- 3 環境が整備されたうるおいのある学校

めざす児童像

- 1 あいさつができ、友とわかり合う子
- 2 真剣なまなざしで学習にのぞむ子
- 3 健康で明るく元気に遊ぶ子

めざす授業像

- 1 児童全員が主体的に参加する授業
- 2 児童同士の関わり合い、学び合いがある授業
- 3 言語活動をととして、伝え合う力を高める授業

求める教師像

- 1 とことん児童に関わり続ける教師
- 2 常に授業の向上をめざす教師
- 3 児童の人権を大切にす教師

(3) 学校経営の基盤とするもの

人権尊重の精神を基盤とし、安全・安心で、学びがい、応援しがい、働きがいのある学校をめざした学校経営を行う。

- ・児童のよさや可能性を伸長させ、自己肯定感や自己有用感を高揚させる指導の充実を図る。
- ・すべての児童に基礎・基本の徹底を図り、主体的に学び続けるための指導方法の工夫改善を図る。
- ・児童が安全で安心して生活できる校内体制整備と充実を図る。
- ・保護者・地域とともに歩む学校づくりを進める。
- ・すべての教職員が、職業人としての自己の成長を感じつつ、充実感を味わい、塩屋小の一員であることを誇りに思う「働きがいのある学校」をめざす。

(4) 重点課題

① 保護者・地域と連携した教育の推進

- ・保護者・地域住民の学校運営への参画
- ・学校評価、保護者アンケートの教育活動への反映
- ・ふるさと意識の醸成

③ 配慮を要する児童への対応

- ・児童の実態と内面理解に基づいた指導と支援
- ・就労までを見据えた保護者との共通理解と関係機関連携
- ・常に「気にかかけ」「目をかける」意識

⑤ 児童の規範意識・マナーの向上

- ・きまりを守ろうとする意識
- ・行儀・礼儀の心と公共の精神を高める指導
- ・相手を意識し、大切にす心をもとにした言葉遣い

⑦ 不登校の解消・いじめへの対応

- ・未然防止のための魅力ある学校づくりの取組
- ・早期発見・早期対応・組織としての対応
- ・家庭・関係機関・学校の情報連携と行動連携の強化

② 学力向上への授業改善・授業力向上

- ・児童の学習意欲を喚起し、全員が主体的に参加できる授業づくり
- ・学び合いがあり考えが深まる授業づくり
- ・基礎学力を獲得できる授業づくり

④ 特別支援教育の更なる充実

- ・職員の理解と実践力の更なる向上
- ・校内指導・支援体制の確立
- ・関係機関との連携による支援体制と支援方法の研究・実践

⑥ 危機管理意識・管理体制の確立

- ・安全配慮義務の徹底と対応マニュアルの見直し
- ・防災体制・防災意識と地域安全体制の確立
- ・食物アレルギーへの理解と対応の体制

⑧ 学校組織力の向上・学校業務改善

- ・教育目標・重点課題の共有化
- ・職員の協働体制、成果の共有化
- ・学校業務の工夫改善
- (子どもと向き合う時間の確保、メンタルヘルスの保持増進)

【総合的な学校関係者評価】

・児童が困ったことを職員に相談できる環境をつくるよう取り組んでほしい。
・学校での方が一に備えて、防災訓練を実施して災害時を想定しての避難訓練の実施。
・行儀・礼儀の心と公共物を大切に使用するよう指導を継続してほしい。
・いつもありがとうございます。安心して学校へ通わせられています。どの先生も教育目標や校訓等を念頭に置いて、子どもたちに関わってくださっていることが伝わっています。
・めざす学校像(環境が整備されたうるおいのある学校)について、アンケート(児童)の中で掃除をしたり、整理整頓したりできましたかの項目で数値が高く、保護者や地域の方々の協力もあり、きれいに整備されていると思う。
・(あいさつができ、共とわかり合う子)について、とても明るく元気にあいさつができてくる児童が多い。→先生方が率先しているから。
・参観の様子から、先生方が児童としっかり向き合っている授業を進めている様子がうかがえた。友だちを大切に、授業に取り組んでいた。
・学校内での展示物、掲示板等が色々と工夫され、配慮されていた。
・全ての教職員が「やりがい」「満足感」を味わいながら塩屋小の一員であることを誇りに思っている。先生方の熱意がこもっているのを感じています。
・机上での学習のみならず、体験学習により主体的に考え行動できる児童の育成。
・担任だけではなく、職員全員の共通理解のもと支援や指導をされている様子がうかがえる。
・学校全体が明るくとても活気があるように思う。これからもっと地域と学校の交流が増えたいと思います。
・めざす学校像として「保護者、地域とともに歩む学校」とあるがコロナもほぼ明けたので、子供の体力を上げつつ、PTA活動や地域行事への子供らの積極的参加を推進されたい。
・また不登校やいじめが生じないように細心の注意を配っていただき、家庭との連絡も密にされたい。
・各校での特別クラブである金管バンドやコーラスがなくなるのは少しさみしいが、子供がやりたいことやられる環境は残してやってほしい。
・児童の健全な育成にご尽力くださり、ありがとうございました。
・感染症対策も定着してきており、できることも多くなってきたので、以前行っていた活動等を先生方の負担ができるだけ少ないような形で再開できたら良いと思いますので、再考の方をお願いします。

【学校関係者評価】

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切ではない ×:適切ではない

2 自己評価結果 (A~D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点 (実践の柱)	評価項目(学校・教師の取組)		評価資料等	達成状況	改善の方策
	評価指標及び目標値(期待される児童の姿)				
① 保護者・地域との連携	項目	児童の主体的な学びを尊重し、生涯学習社会を見据えた学校づくりに努めることができたか	児童アンケート 入学式	A	○児童アンケートの結果からも「学校に来ることが楽しい」と答えている児童が95.4%と数値が高かった。昨年度と比較しても確実に伸びてきている。しかし、「いいえ」と答えた児童もいることを念頭に置き、今後もさらに伸びていくように全職員で共通理解し、取り組んでいく。
	指標	毎日楽しく学校に来ている	保護者アンケート		
	項目	各通信・参観日等オープンスクール・ホームページなどで情報を提供したり、保護者からの相談を受けたりすることができる開かれた学校づくりに努めたか	児童アンケート 学年通信 ホームページ	B	○今年度は参観日が制限なく行うことができるようになった。祖父母参観日で多くの方に授業参観に参加していただいたり、学級懇談会でクラスの様子を話したりすることができた。今後も連携の機会として大切にしていきたい。
	指標	忘れ物をせず、準備物がそろう	保護者アンケート		○連絡メールやホームページを活用し、情報発信に努め、保護者・地域とのよりよい関係づくりに努める。
	項目	学びの機会を充実するとともに、家庭と連携して学習習慣を身につけるように工夫したか	児童アンケート 学級懇談会 個別面談	B	○学級懇談会や個別面談などで、家庭学習の習慣を身に付けることの大切さについて、保護者に働きかけていく。
	指標	家庭学習を家庭でこなし、きちんと提出している	保護者アンケート		○全職員共通理解のもと、家庭での学習習慣を確立させ学力向上をめざす。
② 確かな学力	項目	児童の実態に応じた学習課題を設定し、意欲を持って、自ら学び、自ら考える力を育成するように努めたか	児童アンケート 自主学習	A	○児童アンケートからも「楽しく学習し、勉強が分かりやすい」と答えた児童が94.6%であった。今後も、学び合いの機会を設け、児童が互いに支え合い、認め合い、分からないことが分からないと伝えられるような主体的・対話的な学びの形へと近づけるよう心がける。
	指標	学校の勉強が楽しく分かりやすいと感じている	保護者アンケート		○全児童が学習内容を理解できるように、様々な学習形態を取り、ICT機器や児童生徒支援教員を活用するなど、個別最適な学びの充実を図る。
	項目	基礎・基本的な内容を明確にし、評価の基準を定め、指導方法を工夫改善して理解の徹底を図ったか	児童アンケート 学力テスト等	B	○「めあて」による見通しをもたせ、「まとめ」による定着を図るような授業を展開していく。
	指標	学習内容を目当てに沿ってまとめたり発表したりすることができる	保護者アンケート		○児童の実態を見据え、教材研究を充実していく。
	項目	家庭学習の定着及び充実を図ることができたか	児童アンケート	B	○感染症対策に留意しつつ、グループ研究や発表の場を積極的に取り入れ、友達と関わる力を伸ばしたり、課題解決による達成感を味わわせたりしていく。
	指標	学年相応の漢字・計算を確実にこなすことができている	保護者アンケート		○今年度は3年生以上はタブレット端末を活用した家庭学習に重点を置いて取り組んだ。タブレット学習と従来のプリント・ノート学習を併用し、児童の主体的な家庭学習を推進する。
③ 健やかな体	項目	「早寝・早起き・朝ごはん運動」を推進し、子ども達に声かけ等の働きかけをすることができたか	児童アンケート 生活実態アンケート 早寝早起き朝ごはん運動	B	○児童アンケート、保護者アンケートから約80%が取り組んでいると答えていた。今後は「早寝早起き朝ごはん運動」や生活実態アンケートの結果を活用し、保護者にも働きかけをしていく。さらに、養護教諭とも連携しながら保健の授業や特別活動等の時間を活用し、指導を行っていく。
	指標	「早寝・早起き・朝ごはん運動」の目標を設定し、守っている	保護者アンケート		
	項目	望ましい食習慣を養う一助となるよう、給食の時間の充実を図ることができたか	児童アンケート 保護者アンケート	B	○給食の時間を利用して、児童一人一人が食べられる量を設定し完食できることをめざし、栄養面やマナー面の指導の充実を図る。
	指標	好き嫌いをせず、給食を食べている。			○家庭へも改善することの意識を訴えながら、体づくり、身体づくりに意識が向かうようにする必要がある。
	項目	一人一人の体力・運動能力の向上を目指し、外遊びを奨励したり、体育の時間の充実を図ることができたか	児童アンケート 新体力テスト	B	○児童アンケートの結果から「外で元気に遊んでいる」と答えた児童は82.7%で学年が上がるに従って低い傾向がある。係活動等を活用し、外遊びのしやすい環境作りに努める。
	指標	外で元気に遊んでいる	保護者アンケート		○新体力テストの結果を踏まえ、体育学習の指導法を改善する。

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と次年度具体的改善方法
○	○	<ul style="list-style-type: none"> 児童が「学校に来ることが楽しい」と答えている児童が多く数値が高いのは職員が力を入れて取り組んだ結果です。今後も継続してください。 連絡メールで各担任より細やかな連絡があり、助かっている。 懇談会での内容の報告があれば欠席者の方にも共通理解ができる。また、事前に話す内容の記入用紙等あれば、欠席者の意見も取り入れることができる。 家庭学習の提出について学校生活も慣れてきた3年生ですが、数値(アンケート)が低いので大切な時期だと思うので、見直す必要があると思う。 日頃から子供の様子に目を配り、不登校の子供が出ないように注意されたい。 1項目の改善の方策について、改善の方策(手立て)として具体的に何をどうするかをもう少し詳しく書いてほしい。 2項目の指標について、開かれた学校づくりに努めたかを評価する指標として、違和感がある。
◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 児童が意欲を出し、自ら学ぶ力を引き出すように育成に取り組んでください。 書く方が覚えられる子、タブレットで十分に学習できる子など違いもある。 自主学習を推奨することには賛成です。考える機会も大切だが生徒一人一人と先生が話し合う機会をさらに設けてほしい。
◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 「早寝・早起き・朝ごはん運動」の推進は日常生活に必要で継続して指導を行ってほしい。 個人的には食事中はおしゃべりはせず、食事が頂けていることに感謝し、こぼしたり、口から出ないように集中して食べてほしいので、前を向いて静かに今の状態を保ってほしい。 給食の好き嫌いについて、何が嫌いで食べられないのか家庭での協力も必要であるけれど、嫌いなものを食べても栄養にならない。→数値が低くてもしかたないかと。 規則的な生活習慣を身に付けさせ、夜更かしのないよう家庭とも連携を取られたい。また、コロナも明けたので基礎的な体力向上に務められたい。

(A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点 (実践の柱)	評価項目(学校・教師の取組)		評価資料等	達成状況	改善の方策
	評価指標及び目標値(期待される児童の姿)				
④ 豊かな心	項目	児童一人一人の実態を的確に捉え、全職員で共通理解して適切な指導を行うことができたか	児童アンケート 保護者アンケート	A	○教育支援委員会など各種委員会を定期的に行うことで、児童に寄り添う指導を行う。また、支援の必要な児童は職員会議で全職員で共通理解する。 ○スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用し、相談活動をさらに充実する。
	指標	困ったことを相談することができる			
	項目	人権教育を全教育活動に位置づけ、差別や偏見を解消するため実践力を培うよう努めたか	児童アンケート 保護者アンケート	A	○道徳科の授業や特別活動の充実によって、多様な人との関わりを通して人権感覚の育成に努める。 ○日々新たな人権問題が出てくる中で、その都度、職員研修を行い、人権に対する感覚を共有していく。
	指標	友達の良さががんばりを見つけ、広めようとしている			
	項目	全ての教育活動の中で道徳性を培うように配慮し、道徳的实践力を育成するように努めたか	児童アンケート 保護者アンケート	A	○道徳科の授業改善、授業研修の機会をもち、教職員の指導力向上を図る。 ○道徳科で学んだことを、体験活動や行事等と結びつけることで、生活の中で実践できるようにしていく。
	指標	道徳の時間で学んだ価値を、生活の中でいかそうとしている			
⑤ 生徒指導	項目	児童の実態を的確に把握し、生徒指導上の問題行動等を未然に防ぐよう働きかけるとともに、問題行動発生時には、適切に対応できたか	児童アンケート 個別面談	A	○学校のきまりや約束など、生活指導委員会を中心にその時期に応じた内容を話し合い、全職員共通理解のもと継続して指導にあたる。 ○いじめを解決したあとも、児童や保護者に3ヶ月後を目途に必ず様子を確認する。
	指標	きまりを守り、正しい生活を心がけている	保護者アンケート		
	項目	いじめ・不登校等の諸問題について、迅速に組織的な対応をするとともに、早期解消に向け、保護者等との連絡を密にしながら、計画的に支援・指導ができたか	児童アンケート 保護者アンケート 学校生活アンケート	A	○いじめアンケートの結果をもとに、未然防止の観点から小さな案件もいじめと捉え、早期対応する。 ○不登校児童の保護者との連絡を密にし、支援をさらに充実させる。
	指標	困っている友達に関わろうとしている			
	項目	道徳性の向上と規範意識の醸成に向けて、計画的に指導できたか	児童アンケート 保護者アンケート	B	○児童の実態を把握して、計画的に道徳科の授業を行い、実践的な態度につながるようにしていく。 ○道徳科をはじめ、各教科・領域の中で、きまりについての理解を深め、発達段階に応じた指導を行う。
	指標	物事の善し悪しについて理解し、言動に表している			
⑥ 児童をとりまく環境の整備	項目	危険箇所、危険物の除去・改修等に心がけ、清潔で衛生的な環境整備に努めたか	児童アンケート 保護者アンケート	B	○毎月の安全点検を教職員が分担して行い、児童にとって危険な箇所を速やかに修繕できるように来年度も継続して行う。 ○生活目標を毎月設定し、さらに各学級や学年で実態に応じたためあてを児童に考えさせ、実践できるようにする。
	指標	生活目標をきちんと守って生活している			
	項目	教育活動を充実させるための教育的環境の整備に配慮し、研修内容を実践に活かし取り組んだか	児童アンケート 保護者アンケート	B	○児童アンケートの結果から、無言清掃や整理整頓を意識している児童が増えてきている。生活指導委員会を中心に「無言清掃」の継続的な取組を続けており、引き続き教職員が共通理解して指導していく必要がある。
	指標	掃除をすることの意義を理解し、美しい環境を保っている			
	項目	友達を尊重した呼び方をし、相手への嘲笑や侮辱、厳しい非難の言葉を解消するよう指導できたか	児童アンケート 保護者アンケート	A	○友達を大切にしたい呼び方をしている児童が94%と高い数値である。名前を大切にすることが、友達を大切にすることであることを全教職員が共通理解して、よい習慣を定着できるよう指導していく。
	指標	友達を大切にしたい呼び方をしている			

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切ではない ×:適切ではない

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と次年度具体的改善方法
◎	◎	・困ったことを相談することができましたかについて高学年に従って数値が低い。誰にだったら相談しやすいのでしょうか。 ・仲間と協力しながら学校行事に参加していることはいいと思う。続けてほしい。 ・支援の必要な児童はその子だけでなく、家庭自体・支援を要するところが多々あるように思います。関係機関との連携の充実を望みます。 ・子供個々の学習状況、生活態度に目を配り、家庭との連絡を欠かさず、相談しやすい環境作りをお願いしたい。 ・各学年で%にムラはあるものの、低い学年については何が原因かを分析し対策を実施してほしい。誰が相談しづらいと感じているのかを把握できるのならその子に合わせた対応もできるのでは。
◎	◎	・いじめアンケートを定期的実施して職員と児童とが確認してほしい。 ・先生方の指導のもと、きまりを守り正しい行動ができていっているように思う。家庭でも話されているようでいいと思う。 ・いじめ解決後も継続して見守ることはとても重要なことだと思います。 ・不登校児童家庭との連絡を密に取ることで少しでも児童の気持ちか軽くなると思います。 ・子供にも守るべき社会のルールを教えていってほしい。また、いじめを見逃さないクラスづくりをお願いしたい。
○	○	・危険箇所、危険物の除去・改修等は常に注意深く行い、早く修繕するようにしてほしい。 ・トイレが古く、我慢して家ですという時があります。一般公衆の清潔さと明るさのトイレへの検討をお願いしたい。 ・交通事故には十分注意させるよう指導願いたい。 ・インターネットの使い方については、子供や親への研修を常に実施してほしい。

【自己評価における特記事項】

※達成状況の評価は、下記のA・B・C・Dで自己点検を行い、ポイントに換算し、教職員数で平均している。

A:達成した…4ポイント B:ほぼ達成した…3ポイント C:あまり達成できなかった…2ポイント D:達成できなかった…1ポイント

※職務内容が異なることから、評価項目全て当てはまるとは限らない。また、最終的に「児童アンケート」「保護者アンケート」を考慮した上で、達成状況の評価を決定している。

【項目以外の点で次年度の課題や具体的改善方法】

○学校行事やPTA活動を基軸とし、保護者・地域との連携を意識して教育活動にあたる。

○感染症対策に留意しつつ、体験活動の充実を図り、自ら学ぶ力を養う。

○児童が自分自身に対して肯定的に評価ができるよう、児童の学び合いを充実させ、自尊感情の高揚を図る。

○ICT機器(タブレット端末)を活用して、基礎的、基本的な知識・技能を習得させながら思考力・判断力・表現力などを高め、主体的に仲間と協働して問題解決に取り組めるようにする。